

## 1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

冬休みまであと三日。教室では「雪だるま作るんだ」「スケート行くよ!」と、楽しそうな声が次々と上がっていた。みんなの笑顔の中で、ゆいは少しだけ元気がなかった。冬休みの前半、両親が仕事で家にいない日が多いと知り、胸の中にぼつんと不安が残っていたからだ。

家に帰ると、テーブルの上に母からのメモがあった。「ゆいへ。今日は遅くなるけれど、ご飯は温めて食べてね。」その文字を見つめると、以前母に言われた言葉を思い出した。「冬休み、自分でできることを探してみてね。大丈夫だから。」その言葉は優しくかった。でもゆいには、「自分で過ごす」ということが急に難しく感じられた。

次の日、図書委員の当番をしていると、友達のあおいが近づいてきた。「ゆいは冬休み、何するの?」と聞かれ、「まだ決まってる」と答えると、あおいはうれしそうに言った。「私はね、読書の記録ノートを作るの。お気に入りの場面を書くの楽しいよ。」その言葉を聞いて、ゆいは少し興味がわいた。「ひとりでもできることがあるんだ。」不安の中に、ほんの少し光がさした。

そして冬休み初日。両親を見送ると、家の中が急に静かになった。胸がぎゅっとしたが、「図書館に行ってみよう」と気持ちを切りかえ、マフラーを巻いて家を出た。

図書館に入ると、ほんのり温かい空気と紙の匂いがゆいを包んだ。奥の席で、同じクラスのひびきもう宿題をしていた。「え、もうやってるの?」とゆいが驚くと、ひびきは「早く終わらせたいからね」と笑った。

その姿を見て、ゆいも席に座り宿題を開いた。最初は集中できず、時計ばかり見てしまったが、何問か解けるうちに少しリズムが出てきた。気づけば一時間以上経ち、ノートには思ったより多くの答えが並んでいた。「やればできるんだ。」その気づき

が、胸に小さな自信を生んだ。

午後、本を二冊借りて帰ったゆいは、あおいに聞いた「読書記録ノート」を作り始めた。タイトルを書き、気になった文を書き写し、読んで感じたことをいねいに書いていく。白いページが自分の言葉で少しずつ満たされていくのがうれしく、時間が過ぎるのも忘れてしまった。

それから数日、ゆいの冬休みは自然と形を作っていた。午前は宿題や調べ学習、午後は読書と記録ノートづくり、夜は少しだけゲームをする。ひとりの時間はさみしいだけと思っていただけけれど、「自分の好きなことを見つける時間」に変わりつつあった。

冬休み後半、久しぶりに両親と家でゆっくり過ごす日があった。ゆいは、途中まで書いた記録ノートを見せた。ページを見た母は「すごいね、こんなに書いたの?」とほほえみ、父も「工夫してがんばったんだな」とほめてくれた。胸の奥があたたかくなり、ゆいは少し照れながらもうれしかった。

冬休みが終わる前の日、ゆいは宿題をまとめ、記録ノートを机の上に並べた。最初は不安でいっぱいだった冬休みが、ふり返れば「自分で考えて過ごせた時間」になっていた。ゆいは静かに思った。「できないと思ってても、やってみたら案外できるんだ。」その言葉とともに、冬休みで育った新しい自信が、ゆいの中でしっかりと息づいていた。



- (1) ゆいが冬休みの前に元気がなかった理由を、文章中の言葉を使って三十五字以内で書きましょう。

~~~~~

- (2) 本文の内容と正しければ○、ちがっていれば×をつけなさい。

- ( ) あおいは、冬休みは家族と旅行に行くと話していた。
- ( ) 図書館でゆいは、ひびきがすでに宿題をしているのを見た。
- ( ) ゆいは読書記録ノートを書くことに最初から自信があった。
- ( ) ゆいの母は、ゆいが作った記録ノートを見てほめてくれた。

- (3) ゆいが図書館へ行こうと思ったのは、どんな気持ちからですか。最も適切なものを選び番号を○で囲みなさい。

- ① 家でゲームをしなくなかったから。
- ② 何か自分でできることを探したかったから。
- ③ ひびきと一緒に遊びたかったから。
- ④ 本を返す日が近かったから。

- (4) 記録ノートを書き進めるうちに、ゆいの気持ちはどのように変化しましたか。四十字以内で書きなさい。

~~~~~

- (5) 次の出来事を起こった順に並べかえなさい。

- ① 両親に記録ノートを見せる
- ② 友達のおおいかから記録ノートの話を聞く
- ③ 読書記録ノートを書き始める
- ④ 図書館で宿題をする

~~~~~

↓ ↓ ↓

~~~~~

- (6) この物語全体を通して、作者がいちばん伝えたいこととして適切なものを一つ番号を○で囲みなさい。
- ① 冬休みは宿題を早く終わらせたほうがよい。
- ② 一人の時間はさみしいだけなので、できるだけ外で遊ぶべきだ。
- ③ 図書館は冬休みに行く場所として人気がある。
- ④ 自分で考えて行動することで、新しい自信が生まれる。

- (1) ゆいが冬休みの前に元気がなかった理由を、文章中の言葉を使って三十五字以内で書きましょう。

解答例  
両親が仕事で家にいない日が多く、  
う過ごせばよいか不安だったため。

- (2) 本文の内容と正しければ○、ちがっていれは×をつけなさい。

- (×) あおいは、冬休みは家族と旅行に行くと話していた。
- (○) 図書館でゆいは、ひびきがすでに宿題をしているのを見た。
- (×) ゆいは読書記録ノートを書くことに最初から自信があった。
- (○) ゆいの母は、ゆいが作った記録ノートを見てほめてくれた。

- (3) ゆいが図書館へ行こうと思ったのは、どんな気持ちからですか。最も適切なものを選び番号を○で囲みなさい。

- ① 家でゲームをしなくなかったから。
- ② 何か自分でできることを探したかったから。
- ③ ひびきと一緒に遊びたかったから。
- ④ 本を返す日が近かったから。

- (4) 記録ノートを書き進めるうちに、ゆいの気持ちはどのように変化しましたか。四十字以内で書きなさい。

解答例  
最初は不安だったが、書くうちに自信がわき、自分の時間を楽しめるようになった。

- (5) 次の出来事を起こった順に並べかえなさい。

- ① 両親に記録ノートを見せる
- ② 友達のおおいかから記録ノートの話を聞く
- ③ 読書記録ノートを書き始める
- ④ 図書館で宿題をする

② ↓ ④ ↓ ③ ↓ ①

- (6) この物語全体を通して、作者がいちばん伝えたいこととして適切なものを一つ番号を○で囲みなさい。

- ① 冬休みは宿題を早く終わらせたほうがよい。
- ② 一人の時間はさみしいだけなので、できるだけ外で遊ぶべきだ。
- ③ 図書館は冬休みに行く場所として人気がある。
- ④ 自分で考えて行動することで、新しい自信が生まれる。